

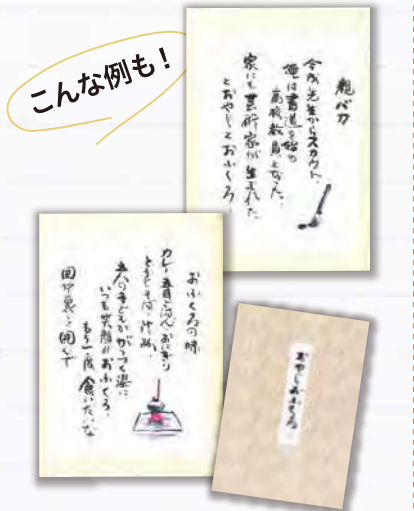
手軽にオリジナルを!

ユニーク 自分史の つくりかた Vol.2

趣味をテーマにした “見せたい自分史”

“自分史づくり”は大変というイメージをお持ちの方が多くと思いますがテーマ次第で気負わずに取り組み、楽しく活用することもできるのです。シリーズ第2回は「趣味をテーマにした“見せたい自分史”」。自分史活用アドバイザーが事例とポイントをご紹介します。

趣味の鉄道でまとめた“鉄道自分史”



こんな例も!

得意の“書”でつづった 両親の自分史

『おやおふくろ』 作/木附将近さん(68)
A4判 ソフトカバー 28ページ

ご両親との思い出を“書画”で表現した、心温まる自分史。



『鉄道写真館1972年~ 2』 作/田中強一さん(61)
A4判 ハードカバー
20ページ

フォトブックで作成。“鉄道自分史”を仲間と共有できる楽しさや、趣味を介して共感してもらえることを、田中さんは感じています。



※フォトブックは「友の会写真館」でも作成可能
… 本誌26ページ参照

趣味を振り返り 思いを添えて

まだ蒸気機関車が走っていたころ、汽笛の音に誘われるように列車を見に行つた少年時代。鉄道が趣味の田中強一さんは、これまで撮つた数万枚の写真をもとに20年前、鉄道のホームページを作成するため、写真整理をしました。

そのとき、趣味の鉄道の写真がそのまま自分の人生をたどっているように感じたそうです。

これまでの人生において、そのときどきの鉄道との関わり方が、田中さんの自分史のテーマになり、鉄道自分史を作成しました。

*

趣味を生かした自分史は、完成すれば友人や趣味の仲間披露したくなる。見せたい自分史として活用できるのではないのでしょうか。自分の得意分野をアピールできるツールとして、長い人生で役立つ機会もありそうです。
どんな趣味でも自分史のテーマに。

講師
自分史活用アドバイザー
倉林奈々子
神奈川県生まれ。生活情報紙編集部を経てフリーライターとなり20年以上の経験を持つ。各界の人物取材を重ねるうち自分史づくりに意義を感じ、自分史活用アドバイザーに。共著に『書かない自分史』(ぴあ刊)。

マに。旅行、スポーツ、映画、収集品などの他、作品集としてまとめやすい俳句や詩、絵画など、夢中だったことを軸に文章をつづることは、自分史作成過程で楽しい発見もあるでしょう。
趣味の写真の説明だけでなく、どんな気持ちでそれを残したかなども書き添えます。
自分史は文章を書く前に、記憶をたどり、それを整理する過程がとて重要で。
振り返るときに「当時の自分の思い」と「今の自分はそれをどう思うか」の2つを意識してみよう。

「はじめに」「おわりに」もつけて、全体からその人らしさや人物像が伝わってくると、単なる作品集とは一味違った奥行きのある一冊になります。